

学校教育目標	学校教育目標:「自立と共生」 ○ 自他を思いやる心を育て、社会で共に生きる力を高めます。【徳・公】 ○ 健康な心と体を育て、主体的に学び、行動する力を高めます。【体・知】 ○ 思いを伝え合う力を高めます。【開】					
	学校概要 創立 41 周年 児童生徒数: 418 人	学校長 森 博昭 副校長 佐久間 万博	2 学期制 一般学級: 12 個別支援学級: 2	主な関係校: 嶮山小学校、荇子田小学校、黒須田小学校、美しが丘西小学校		

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	すずき野中・あざみ野中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的な取組
他者を思いやる心 意欲的に学び、行動する力 自分の思いを伝える力 課題を発見し解決する力 多様性を認め、協働する力 健康な心と身体を作り上げる力	すずき野中 あざみ野中 嶮山小 荇子田小 黒須田小 あざみ野第一小 あざみ野第二小	○ 自分らしく、共に生き、社会に貢献する子 小中学校間で学習指導や生活指導の円滑な接続を重視するとともに、児童・生徒間の交流や小中教職員の交流を積極的に図ることによって、子どもたちに必要な資質・能力を育てる。 特に、すずき野中、嶮山小学校とは二校合同の学校運営協議会等を通じて二校での連携を深め、また、荇子田小の『まち』とともに歩む学校づくり懇話会にてすずき野中と荇子田小学校の連携を深めることで、「9年間で育てる子ども像」に沿った育成を進める。

中期取組目標	<誰もが安心して豊かに、生き生きと生活できる学校を目指して> ○ 生徒一人ひとりに寄り添った指導を行い、学校が生き生きと過ごせる場となるように、生徒・保護者・教職員間の信頼、協力に基づいた教育活動を展開する。 ○ 教職員間の連携を深め、校内研修・授業研修等を充実させることで、教職員の継続的な資質向上に努める。また、従来の慣習にとらわれず、必要に応じて教職員の働き方を見直し、より効率的な勤務体制と運営組織を作る。 ○ すずき野中学校支援会を中心とした、地域・保護者による教育ボランティアの活用、すずき野ジュニアサポーターによる学校からの地域行事への積極参加等、地域との連携を図り、開かれた学校づくりを進め、生徒に地域の中の一員という自覚を育てる。 ○ 学校運営協議会による学校運営の改善を図るとともに、小学校及び地域と密接に連携し、9年間の滑らかな成長ができるように支援する。 ○ 教職員の働き方を見直すことで業務効率の継続的改善を図り、授業力の向上や生徒に向き合う時間を増やす工夫をする。
---------------	---

重点取組分野	具体的取組
学びに向かう力	①日々の授業を通して、授業力向上を目指す。3つの視点「生徒が興味・関心をもって主体的・対話的で深い学び」「学習活動を振り返り次へつなげる」「見通しを持って粘り強く学ぶ姿勢を培う」に重点を置くことで、新学習指導要領(目標・指導・評価の一体化)におけるPDCAサイクルへつなげる。 ②GIGAスクール実施に対して、ICT機器を適切に利用・活用させるためにも、生徒の実態に基づいた指導・支援を効果的に行う。情報活用に向けて、ICT支援員や学校司書との連携を推進する。
豊かな心	特別な教科 道徳を通して、他教科や総合的な学習・学校行事との関連を図り、自己を見つめ、更に他の生徒と交流したり協働したりすることで、新しい考えに出会う喜びを感じ、多面的・多角的な見方へと広げる取組を積極的に行う。
健康な心身	①授業や行事など様々な学校活動を通して、意識的に身体を動かす機会を作り、運動の楽しさを感じることができるようになる。また、まきりを守り、相手を思いやる気持ちを育む。②健康教育では、専門家や専門機関と連携し、正しい情報や根拠をもとに健康な生活について考えられるようになる。特に、感染症についての対策や知識を養う。③災害時に、落ち着いて緊急避難ができるよう避難訓練や防災訓練の方法を工夫する。また、地域のために自分にできることは何か主体的に考えられるような活動を取り入れていく。
生徒指導	①校内の組織対応を見直して情報共有の流れを再確認をする。②長期休業明けの教育相談を年に3回行い、日頃の見守りや寄り添い、声かけをするなど、適切な支援を行う。③職員会議や23番会議、また生徒指導研修を行い、生徒ひとり一人の情報を共有して組織的な対応を行う。④特性のある生徒や不登校生徒への支援をカウンセラーや支援員と連携しながら特別支援教室の運営をしていく。
教育課程	①新学習指導要領に則り、実施するように努めていく。特に、総合学習の適切な運営が行われるように職員間に周知していく。②評価基準と授業の一体化が図られるように、資料提供、職員研修を通して促進していく。③行事の運営が適正に行われているか、学校教育目標に対して修正、変更について職員で検討することを推進していく。
地域連携	①令和2年度はコロナの影響で地域行事がすべて中止になった。令和3年度は、さらに地域との連携を進めるためにも、年間計画をお知らせをして、お手伝いやボランティアとして参加生徒を募りジュニアサポーターとして参加する。②支援会を中心に学校行事の中で、福祉体験や面接練習や学習教室等の協力を仰ぐ。③高齢者をいたわる優しい気持ちを育むためにも、小中連携の一環で年賀状を送る取り組みをする。
環境整備	①生徒の意見や活動も取り入れ、学校施設の維持と改善の提案を行い、よりよい教育環境をつくる。 ②教職員に対し引き続き環境維持のための意識的活動を呼びかけ、相互チェックの体制の確立を図る。 ③定期的に安全点検を行い、事故の防止に努める。 ④コロナ感染症対策について、生徒・職員で共通理解を図り、学校全体で対応していく。
特別支援	①配慮の必要な生徒については、特別支援教室を活用し、丁寧な初期対応を心がけ、安心できる環境を整える。②継続した支援は組織で取り組み、主体的な学びや学び合いにつながる学習支援を行う。③進級や進路へ向けて、必要に応じて自立活動を取り入れていく。
いじめへの対応	①校内の連絡システムを再確認するとともに、年3回の教育相談や生活アンケートを通して、生徒の細かな変化を見逃さないような体制を強化する。また教職員のいじめに対する感度を高くするとともに、いじめ防止研修を行い、共通理解をはかり生徒指導部と連携していく。②月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、認知された案件の経過確認をいねいに行うことで再発防止に努める。③全学年にサイバーモラル講習を行い、啓発を行う。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームを作り、コーディネーターを中心に、初任者や新しく着任し、2校目以下の職員を対象に研修・情報交換を行う。②研修の計画を立て、行事との拘わりをとらえながら実施していく。③PDCAサイクルを意識して、学級運営や授業が展開しやすくなるように支援する。